



ぐんま国際アカデミー 女子高生ヘアドネーション同好会

高校生ボランティア・アワード2021

思いよ届け！「幸運のウィッグ」

活動概要

女子高生ヘアドネーション同好会は、日本全国から髪の毛を募り、アートネイチャーさんの協力のもとにウィッグを制作し、小児がんなどで頭髪に悩みを抱える子どもたちに無償で届ける活動をしています。

ぐんま国際アカデミーに通う、高校3年生から一番下は中学1年生が現役メンバーとして活動を行っています。男子高校生も所属し、幅広い学年のメンバーで毎週楽しく活動をしています。同好会を立ち上げ、高校を卒業し大学生となった先輩も、今もなお活動をサポートしてくれています。

通常1つのウィッグを作るためには31cm以上の髪の毛、約30人分が必要とされています。人毛で作られたウィッグは人工的なものより持ちも良く扱いやすいものの、値段も高くなっています。私たちは多くの方が協力してくださってできたウィッグを「幸運のウィッグ」と名付け、子どもたちの笑顔が見られるように、日々の活動を頑張っています！



「子どもたちに当たり前を」

活動目的・志

私たちにとって当たり前と思っているおしゃれやヘアスタイルも髪の毛があってこそのもので、しかし、髪の毛がないことが恥ずかしい、ヘアスタイルでおしゃれを楽しみたい、などたくさん子どもたちが髪の毛に対してコンプレックスを抱えています。ただでさえ小さい体で病と闘う子どもたちに髪の毛のことで悲しい思いをしてほしくない、少しでも笑顔になってほしい、そんな思いからこの活動を始めました。

私たち高校生の力ではウィッグを作ることはできないけれど、髪の毛を集めることならできる、という思いから、今ではアートネイチャーさんの協力を得て、子どもたちに無償でウィッグを提供できるようになりました。皆様が送ってくださる髪の毛一つ一つが子どもたち一人一人の笑顔につながります。私たちは一人でも多くの子供たちに幸運のウィッグを通じて笑顔届けようという思いでこの活動を続けています。

私たちの活動（活動の詳細）



①学校でみんなで行う活動

- 学校の事務局に届く髪の毛を受け取る(多い月は300通ほどの髪の毛を送ってくださっています！)
- レターパックや封筒を開封し、髪の毛のみを取り出す
- 送られてきた髪の毛を、31cm以上と31cm未満に仕分ける



②自分の時間で行う活動

- 髪の毛を寄付してくださった方1人1人にお礼のお葉書を書く
- 送ってくださった方の住所や、お葉書を送ったかどうかを確認するための住所入力をする(高校生の先輩が、記入漏れや記入ミスがないかをダブルチェックしてくれています。)
- 同好会に所属するメンバー自身も、ヘアドネーションをするために髪の毛を伸ばしています！中にはヘアドネーションをすでに経験し、2回目3回目に向けて伸ばしているメンバーもいます。



③学校外で行う活動

- アートネイチャーさんに髪の毛を郵送する
- ウィッグが完成したら、患者さんのところへウィッグを提供しに行く
- 次のウィッグを提供する予定の患者さんの頭の採寸をする
- イベントに参加してプレゼンテーションをし、ヘアドネーションを広める
- ウェブサイトやラジオ、ブログの関係者の方に取材をしていただける機会が増えている
- SNSで活動報告や情報発信をする

「寄付してくださった方の応援や支援届けたい」

今年もありがたいことに、全国のみなさんからたくさんの髪の毛の寄付や応援のお言葉が届きます。その中には、私たちの活動を何かしらの形で見つけて初めて髪の毛を寄付してくださった方や、前にも女子高生ヘアドネーション同好会に寄付してくださった方など様々です。そしてどの方も、それぞれの思いを抱いて寄付に踏み出してくれています。応援の気持ちや誰かの役に立てたらという思いから髪の毛を送ってくださる方や、身近な人をなくされた方、髪の毛に困った人が身近にいる方などからも寄付をいただくことがあります。そのため寄付して頂いた髪の毛だけではなく、こういった多くの応援と思いと一緒にウィッグを提供するということが私たちの役目であると信じています。私たちはこれからもこの活動をどんどん広めていき、多くの方の思いと髪の毛を預かる責任を全うし、少しでも多くの子供たちの手助けになりたいと思います。

受賞歴

- 高校生ボランティアアワード2018
さだまさし賞
来場者最高投票賞
- 高校生ボランティアアワード2019
来場者最高投票賞
- 高校生ボランティアアワード2020
名古屋国際会議場賞

活動開始年：2017年4月

ウィッグ第1号目提供：2018年3月

現在

2021年3月：幸運のウィッグ第11号目提供

現在第12号目のウィッグ採寸まで終了

今年は新型コロナウイルスの影響で思うように活動はできませんでしたが、コロナ禍の中でも感染対策をしながら、ウィッグを1つ提供することが出来ました。

